

科目名	IoT概論							
科目名(英)								
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	元田 真史	
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年							
授業概要	モノとインターネットを接続する技術であるIoT(Internet of Things)の概要について講義する。「MCPC IoT システム技術検定」の内容に準拠した内容を扱い、IoT技術者として必要となる基礎知識の習得を目指す。							
	iCDタスクコード		SP05.3.1					
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					DX、クラウドコンピューティング等のIoTに関連する用語を説明できる。		
	○					IoTのエコシステムの名称やIoTシステムに使われるセンサーの名称を説明できる。		
	○					IoTの応用例を4つ以上挙げることができる。		
	○					IoTにおける通信方式とセキュリティ対策、通信データの活用方法について説明できる。		
	○					IoTのビジネスモデルを提案することができる。		
テキスト・教材 参考図書	MCPCモバイルコンピューティング推進コンソーシアム 『IoT技術テキスト 基礎編 改定3版』 インプレス、2022							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示		
	1	IoTの概要①						
	2	IoTの概要②						
	3	IoTのエコシステム						
	4	IoTデバイス①						
	5	IoTデバイス②				これまでに実施した小テストを復習すること (1時間)		
	6	IoT応用システム						
	7	IoT通信方式①						
	8	IoT通信方式②						
	9	IoTデータ活用						
	10	情報セキュリティ①				これまでに実施した小テストを復習すること (1時間)		
	11	情報セキュリティ②						
	12	IoTビジネスモデル						
	13- 14	検定試験対策				間違えた問題を解きなおすこと(1時間)		
	15	総復習(期末試験対策)						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業内で小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎					60%	
	小テスト	◎					30%	
	受講状況				◎		10%	
履修上の注意	PCを持参すること。							

科目名	音声認識演習						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	山下 文夫
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	音声認識システムの仕組みについて学び、音声認識処理の実装を通じて理解を深める。						
	iCDタスクコード		EX02.7.4				
授業形態	講義：	△	演習：	○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				音声認識の手法の種類を説明できる	
	○	○				音声認識処理に関する基礎的な用語問題を答えることができる	
テキスト・教材 参考図書	高島 遼一 『Pythonで学ぶ音声認識』 インプレス、2021						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1-2	音声認識とは					
	3-4	音声認識の基礎知識					
	5-6	音声処理の基礎と特徴量抽出 音声ファイルの読み込み					
	7-8	音声処理の基礎と特徴量抽出 音声の周波数分解					
	9-10	音声処理の基礎と特徴量抽出 特徴量の抽出					
	11-12	音声認識の初歩 アラインメント問題					
	13-14	音声認識の初歩 DPマッチング					
	15-16	GMM－HMMによる音声認識 テンプレートから分布と尤度					
	17-18	GMM－HMMによる音声認識 パラメータ推定					
	19-20	GMM－HMMによる音声認識 GMMとEMアルゴリズム					
	21-22	GMM－HMMによる音声認識 隠れマルコフモデル					
	23-24	GMM－HMMによる音声認識 GMM－HMMの実装					
	25-26	DNN－HMMによる音声認識 ディープニューラルネットワーク					
	27-28	DNN－HMMによる音声認識 DNNとHMMの組み合わせ					
	29-30	DNN－HMMによる音声認識 DNN－HMMの実装					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを実施する。(3)プログラム成果物を評価する。(4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				30%
	小テスト		○				20%
	成果物		◎				30%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	画像認識演習 I						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	元田 真史
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	画像認識の分野は重要度が高まっており適用範囲は拡大の一途である。本科目では画像認識技術の中でも企業から見て習得して欲しい項目を取り上げ、演習を通して技術を習得する。						
	iCDタスクコード		EX02.7.3				
授業形態	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				画像認識技術の適用場面を挙げることができる	
		○				OpenCVを使ったプログラムを新規作成できる	
		○				画像認識の課題に対して課題を解決するプログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	小枝 正直、上田 悦子、中村 恭之『OpenCVによる画像処理入門 改訂第3版』講談社、2022						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1-2	画像処理とOpenCV					
	3-4	OpenCVの導入／画像入力					
	5-6	デジタル画像と配列					
	7-8	画像形式と配列					
	9-10	濃淡変換					
	11-12	フィルタ処理					
	13-14	2値画像処理					
	15-16	複数画像の利用					
	17-18	幾何学変換					
	19-20	図形描画／コーナー検出					
	21-22	円検出／パターンマッチング					
	23-24	顔検出／人物検出					
	25-26	プログラム作成演習／画像の表示切替、2つの画像の差異検出				演習課題のプログラムを作成すること(2時間)	
	27-28	プログラム作成演習／三角形検出、マーカー表示				演習課題のプログラムを作成すること(2時間)	
	29-30	プログラム作成演習／顔検出、部分加工				演習課題のプログラムを作成すること(2時間)	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プログラム作成演習課題を実施する。(3)授業中に確認テストを実施する。(4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				30%
	プログラム作成課題		◎				30%
	確認テスト		◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。						

科目名	自然言語処理											
科目名(英)												
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		元田 真史			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年											
授業概要	人間の言葉をコンピュータで処理するための自然言語処理の技術について学習する。基礎的な前処理の手法や機械学習アルゴリズムをプログラミングすることで理解を深める。											
	iCDタスクコード		EX02.7.2									
授業形態	講義:		演習:		○		実習:		実技:		※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
		○				自然言語データを機械に入力できる形式に変換することができる。						
		○				自然言語データの前処理の手法を2つ以上挙げることができる。						
		○				RNNの構造について説明することができる。						
		○				Transformerモデルを利用することができる。						
テキスト・教材 参考図書	なし											
授業計画	回数	授業項目・内容							授業外学修指示			
	1	自然言語処理の基礎知識										
	2-3	文章のトークン化(形態素解析、ステミング、ストップワード)							文章のトークン化の手法について調査すること(1時間)			
	4	テキストの特徴量化(BoWモデル・Word2Vec)										
	5-6	テキストの前処理(TF-IDF、埋め込み)							テキストの前処理の手法について復習すること(1時間)			
	7-8	データのクレンジング(正規表現)										
	9-13	ロジスティック回帰による感情分析							RNNの復習をすること(1時間)			
	14-15	RNNによる感情分析										
	16-17	RNNによる言語モデル										
	18	Transformerモデルの基礎										
	19-21	Transformerモデルの利用							Transformerについて復習すること(1時間)			
	22-23	TransFormerモデルによる感情分析										
	24-29	対話システムの開発										
	30	総復習										
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プログラム作成演習を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
			言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他	
定期試験				◎								30%
プログラム課題				◎								50%
受講状況								◎				20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。											

科目名	制御プログラミング演習B						
科目名(英)							
単位数	8単位		時間数	120時間		担当者	高橋 政博
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	マイコンボードを使ったC言語プログラムの開発を行う。マイコンボードを扱うにあたりマイコン仕様書の読み方を学習し、マイコンの仕組みを理解する。最初はテキストに書かれているプログラムを打ち込んで動きを理解し、その処理を応用して提示される課題プログラムを作成する。 iCDタスクコード DV07.6.1、DV07.6.2、DV07.6.3						
授業形態	講義： △		演習： ○	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				C言語によるOSレス環境でのマイコン向けプログラムを新規作成できる	
		○				回路図やハードウェアマニュアルを読んで内容を理解できる	
		○				入出力割込み、LCD、A/D変換、タイマ割込みの処理を含むプログラムを実装できる	
テキスト・教材 参考図書	島田 義人 『H8/Tinyマイコン完璧マニュアル』 CQ出版社、2005 使用機材：H8/3694F マイコンボード						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1-4	マイコンボードの仕組み					
	5-8	モニタプログラムとデバッグ方法					
	9-12	プログラムのROM化手法					
	13-16	割込み処理の基礎知識					
	17-20	マイコンのハードウェアマニュアルと回路図の読み方					
	21-24	LED、LCD、I/Oポート制御					
	25-28	割り込み処理					
	29-32	単一モードによるA/Dコンバータプログラム					
	33-36	A/Dコンバータによる簡易電圧計					
	37-40	スキャンモードによるA/Dコンバータプログラム					
	41-44	A/Dコンバータまとめ					
	45-48	サーミスタを使用した電子温度計					
	49-52	タイマ機能を利用した割込みプログラム					
	53-56	CPUファンコントローラの作成					ここまでの機能の開発手順の復習を行うこと
	57-60	総合演習					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)成果物として作成プログラムを提出する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				40%
	成果物		◎		○		40%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	キャリアデザイン						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	元田 真史
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報工学科AI&IoT専攻3年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	就職活動の準備としてIT業界の研究、自己分析、履歴書作成、面接練習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				IT業界の職種について説明ができる。	
	○	○				就職採用試験に提出する履歴書の作成ができる。	
	○	○	○	○		面接試験を受ける準備ができる。	
テキスト・教材 参考図書	『就職活動ガイドブック』 麻生塾						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	就職活動の流れ、就職活動のルールを知る					
	2	業界研究① IT業界の基礎				IT業界について調査する	
	3	業界研究② 様々な業種に絡むIT業界				IT分野の業種について調査する	
	4	業界研究③ IT業界で活躍する人材とは				社会人基礎力について調査する	
	5	自己分析① 過去の自分と向き合う				就職活動ガイドブックの自己分析シートを記入する	
	6	自己分析② 今の自分と向き合う					
	7	自己分析③ 未来の自分と向き合う				5年後、10年後の自分の姿を予想する	
	8	履歴書作成① 自己PR				自己PRを完成させる	
	9	履歴書作成② 業界志望理由				業界志望理由を完成させる	
	10	履歴書作成③ 趣味・特技・特記事項				履歴書を完成させる	
	11	面接練習① 入退室の所作					
	12	面接練習② 自己PR・志望理由の受け答え					
	13	面接練習③ 自己PR・志望理由の掘り下げ					
	14	面接練習④ 学生時代に力を入れたこと					
	15	企業説明会・入社試験時のマナー					
評価方法	(1)履歴書を作成する。(2)面接状況(動作、受け答え)を評価する。(3)業界セミナー、就活セミナーのレポートを提出する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	履歴書提出	○	◎				30%
	面接状況	○	◎	◎	◎		30%
	レポート提出		○		◎		20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。						

科目名	一般教養ⅢB						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間	担当者	木村 浩昌	
実施年度	2023年度		実施時期	後期	担当者実務経験		
対象学科・学年	情報工学科 3年・情報システム専攻科 3年 情報システム科アドバンスコース2年、情報システム専攻科アドバンスコース2年						
授業概要	就職筆記試験に関して以下の対策を行う。 ①「SPIテスト」 前期から継続し、数学分野(未実施分)を含め、解説&練習問題を行う ②「CAB・GABテスト」 テキストに沿って、解説&練習問題を行う ③ 漢字ミニテスト 麻生塾の「ミニテスト」を利用し、漢字の練習 ⇒ 確認テスト を行う						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形態	講義: ○		演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。	
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版) 最新最強のCAB・GAB超速解法(成美堂出版)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	CAB・GAB対策(その1)					
	2	CAB・GAB対策(その2) 、漢字対策(その1)					
	3	CAB・GAB対策(その3) 、漢字対策(その2)					
	4	CAB・GAB対策(その4) 、漢字対策(その3)					
	5	中間テスト(CAB・GAB一連テスト)、漢字対策(その4)				中間テストの範囲を復習しておくこと	
	6	CAB・GAB対策(その5) 、漢字対策(その5)					
	7	SPI数学分野の対策(その1)、漢字対策(その6)					
	8	SPI数学分野の対策(その2)、漢字対策(その7)					
	9	SPI数学分野の対策(その3)、漢字対策(その8)					
	10	SPI数学分野の対策(その4)、漢字対策(その9)					
	11	SPI数学分野の対策(その5)、漢字対策(その10)					
	12	SPI数学分野の対策(その6)、漢字対策(その11)					
	13	SPI数学分野の対策(その7) 及び SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	14	SPI性格検査、CAB・GAB性格検査OPQ SPI数学分野の小テスト				小テストの範囲を復習しておくこと	
	15	SPI数学分野の小テスト 及び SPI国語分野の復習、定期試験対策					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				55%
	小テスト	◎	◎				25%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	組込みソフトウェア技術									
科目名(英)										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		山下 文夫	
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年									
授業概要	組込みシステムの技術要素、開発技術、管理技術について学ぶ。 ETEC(組込みソフトウェア技術者試験)クラス2の範囲を学ぶ。練習問題を解くことで知識を深める。									
	iCDタスクコード		該当なし							
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標				
		○				ETEC(JASA組込みソフトウェア技術者試験)クラス2の範囲の用語を説明できる。				
		○				ETEC(JASA組込みソフトウェア技術者試験)クラス2の問題に正解することができる。				
テキスト・教材 参考図書	組込みシステム技術協会 人材育成事業本部 『よくわかる組込みシステム開発入門』 技術評論社、2021									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1-2	マイコンの誕生から今日まで								
	3-4	マイコン回路とデジタル回路								
	5-6	組込みシステムについて								
	7-8	組込みシステムの設計手法								
	9-10	組込みシステムの設計実務 ハードウェア								
	11-12	組込みシステムの設計実務 ソフトウェア								
	13-14	組込みシステムの設計実務 テスト、デバッグ								
	15-16	安心して使える組込みシステム 信頼性								
	17-18	安心して使える組込みシステム 安全性対策								
	19-20	組込みシステムの製品化					ここまでの講義内容の復習をすること			
	21-22	練習問題(1) 技術要素1								
	23-24	練習問題(2) 技術要素2								
	25-26	練習問題(3) 技術要素3								
	27-28	練習問題(4) 開発技術								
	29-30	練習問題(5) 管理技術								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験			○				60%		
	小テスト			○				20%		
	受講状況					○		20%		
履修上の注意										

科目名	リアルタイムOS演習						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	浜地 啓
実施年度	2023年度		実施時期	後期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム専攻科AIエンジニア専攻3年・情報工学科AI&IoT専攻3年・ 情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース2年						
授業概要	リアルタイムOSであるITRON(トロン)の仕組み、仕様を理解する。オープンソースOSのTOPPERS/JSP環境を使用し、ITRON4.0のサービスコールを利用したプログラミングを行う。						
	iCDタスクコード		DV07.5.1				
授業形態	講義: △		演習: ○	実習:		実技:	※ 主たる形態:○ その他:△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
		○				リアルタイムOSであるITRON(トロン)の仕組み、仕様を説明できる	
		○				オープンソースOSのTOPPERS/JSP環境を使用してプログラムを作成できる	
		○				ITRON4.0のサービスコールを利用したプログラムを作成できる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1-2	導入／組込み用OSとは／ITRON用マイコンボード					
	3-4	OS無し／LED点灯消灯					
	5-6	DIPスイッチ読み取り					
	7-8	シリアル通信(文字伝送)					これまでのプログラムの動作の仕組みを復習すること
	9-10	OS有り／ITRONとは／カーネル構築					
	11-12	タスクの生成					
	13-14	シングルタスク					
	15-16	マルチタスク					これまでのプログラムの動作の仕組みを復習すること
	17-18	中間演習課題					
	19-20	データキュー					
	21-22	イベントフラグ					
	23-24	セマフォ					
	25-26	メールボックス					
	27-28	ラウンドロビン					これまでのプログラムの動作の仕組みを復習すること
	29-30	総合演習課題					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)中間演習課題及び総合演習課題の成果物を提出する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験		◎				30%
	成果物		◎				50%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	情報処理試験対策秋対策B											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		20時間		担当者		川野 啓祐			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報工学科3年・情報システム専攻科3年・ 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2年											
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1～5	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
	6～10	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。ただし、国家試験を定期試験とみなす。 (2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								55%
	課題・レポート	○		◎								25%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意	再試験は実施しない											

科目名	情報処理試験対策春対策B											
科目名(英)												
単位数	1単位		時間数		24時間		担当者		川野 啓祐			
実施年度	2023年度		実施時期		後期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報システム専攻科3年・情報工学科3,4年 情報システム科アドバンスコース2年・情報システム専攻科アドバンスコース2,3年											
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。											
	iCDタスクコード		該当なし									
授業形態	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる形態：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。						
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。						
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1～6	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
	7～12	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。					分からなかった部分の復習をしておくこと。					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	○		◎								55%
	課題・レポート	○		◎								25%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意												